

ご使用上の注意

施工される人への危害を未然に防止するためと、ご使用になる人や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、この説明書をよくお読み下さい。

- ⚠ 暖房器具などから発生する熱風、熱気が直接当たらないようにして下さい。扉の反り、変色などの原因になります。
- ⊘ 粘着テープでポスターなどを貼らないで下さい。表面が傷む恐れがあります。
- ⊘ 製品に水、油、殺虫剤などが付着しないようにして下さい。材質の特性により表面がふくれたり、染み、変色などが発生する恐れがあります。
- ⊘ 扉の開閉にあたっては、丁番側の隙間に手を置かないで下さい。指を挟んでケガの恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。
- ⚠ 丁番などの可動部には手を入れないで下さい。挟まれてケガをする恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。
- ⚠ 棚受は確実に奥まで差し込んで下さい。差し込みが不十分な場合、棚板及び収納物が落下する恐れがあります。
- ⚠ 本製品の可動棚板一枚当りの最大収納重量は5kg、固定棚板は10kgです。この重量を超える収納物を載せないで下さい。破損・変形の原因になります。
- ⊘ 安全のため、破損・変形した扉や棚板などは、使用しないで下さい。

- 点検・お手入れについて
1. 日常のお手入れは乾いた柔らかい布または化学雑巾で空拭きして下さい。ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは中性洗剤を薄めて固く絞った雑巾で拭き取って下さい。汚れがひどい場合でも酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤（シンナー・ベンジン）などは絶対に使用しないで下さい。
 2. 虫害を発見された場合は、直ちに殺虫や防虫処理をして下さい。外部から入ったことも考えられますので放置すると虫害が拡大する恐れがあります。
 3. 本体に抗菌剤、消臭・芳香剤などが付着した場合、表面が変色する恐れがありますので、すぐに柔らかい布で拭き取って下さい。（材質：MDF）
 4. 可動棚板（樹脂製）は丸ごと水洗いすることが出来ます。カビの発生及び変形・変色防止のため水洗い後は必ず陰干しをして完全に乾かしてから取付けて下さい。
 5. 使用中に異常を感じられたり不具合が生じたときは、取付部分などの状況を確認して下さい。ご自身で対処できない場合には、施工業者様にご連絡またはご相談して下さい。

マークの見方

- ⚠ この表示の欄は「警告を受けることが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危険、損害の程度です。」
- ⊘ この表示の欄は「してはいけない禁止」内容です。
- ❗ この表示の欄は「必ず実施して頂く」指示内容です。

お客様へのお願い
弊社では、お施主様が製品を安全に正しくご使用頂くためのお願い事項やお手入れ方法などの重要な内容をこの施工説明書に記載しております。施工後は、必ずお施主様に手渡して頂きます様お願いいたします。

- 施工上の注意
- ❗ 建具の下地材には、必ず乾燥剤（含水率19%以下）を使用し、湿潤材（クリーン材）は使用しないで下さい。壁内の通気が悪く、内部結露が発生する恐れがある場合は、防水処理をしてから施工して下さい。
 - ⊘ 組立て後、ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないで下さい。破損の原因になります。建具と柱・間柱・まぐさとの間には必ず隙間を作り、かい木を入れて下さい。かい木には、合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないで下さい。建具をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないで下さい。やむを得ず直付けする場合は、建具木口と床面の間に必ず防水処理をして下さい。
 - ⊘ 養生シートをかぶせる場合は、粘着テープ等を化粧面に貼らないで下さい。はがす際に正面が破損する恐れがあります。
 - ⊘ 発熱燈付近には取り付けしないで下さい。熱により、部品が変形する恐れがあります。

はじめに

※荷物が到着いたしましたら、直ちにキズの有無を確認してください。運送中に発生したキズ等がございましたら、運送業者から事故証明をとり、商品に添えて仕入先へお申し出ください。
※製造上の問題があれば、施工前に仕入先へお申し出ください。
《施工後は当社では責任を負いかねます。》

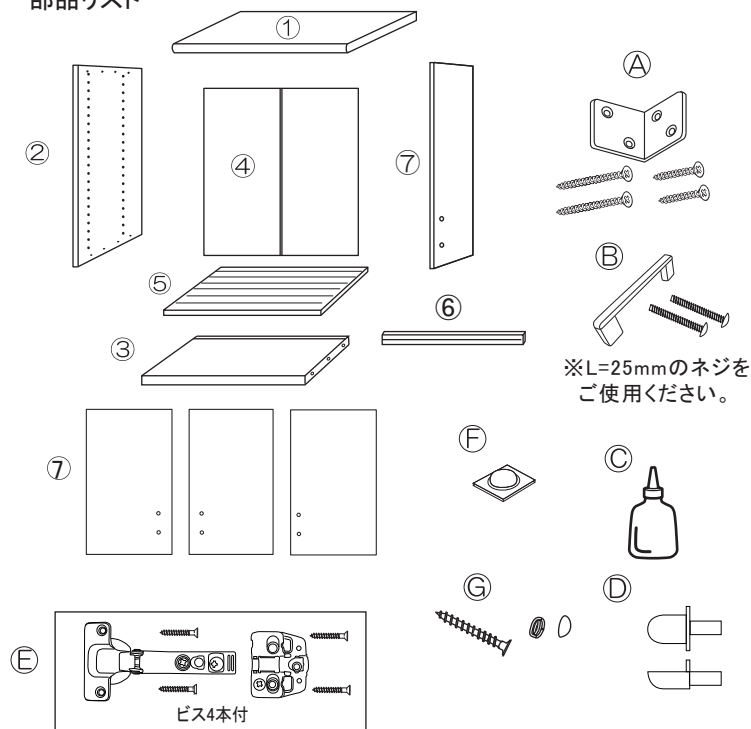
1・商品名：玄関収納庫	6	ホルムアルデヒド 発散建築材料	内装仕上げ部分発散区分
2・タック株式会社	構成材料	M D F	F☆☆☆☆
3・発散区分：F☆☆☆☆	材料	接着剤	F☆☆☆☆
4・住宅部分表示ガイドラインによる			
5・ロット番号：梱包に表示	7	お問い合わせ先 http://www.kensankyo.org/	

部品表（組立前に必ずご確認ください。）

No.	品名	W:400	W:750	W:800
①	天板	1	1	1
②	側板(左右共通)	2	2	2
③	地板	1	1	1
④	背板	1	1	1
⑤	可動棚板	1	1	1
⑥	背板補強板(片面両面テープ貼)	2	2	2
⑦	扉(左)		1	1
	扉(右)		1	1
	扉(兼用)	1		

Ⓐ	L金具セット	4セット	4セット	4セット
Ⓑ	把手	1	2	2
Ⓒ	接着剤	1	1	1
Ⓓ	棚受けダボ	4	4	4
Ⓔ	ヒンジ・座金セット	2セット	4セット	4セット
Ⓕ	パンポン	2	4	4
Ⓖ	連結ビスセット	2セット	2セット	2セット

部品リスト



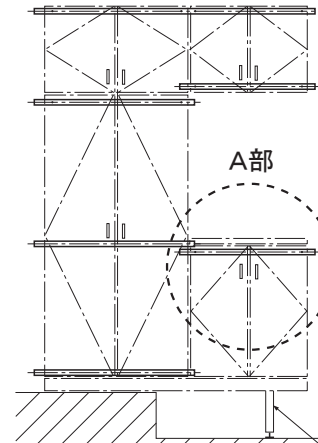
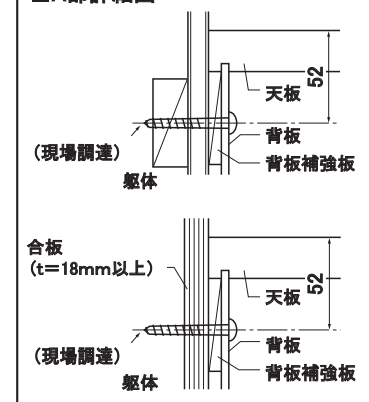
据え付け前の準備

●据え付け場所と上りり框の位置及び、収納セットの左右勝手を確認し、所定の壁面(躯体内)に固定用木棧を設置します(A部詳細図参照)

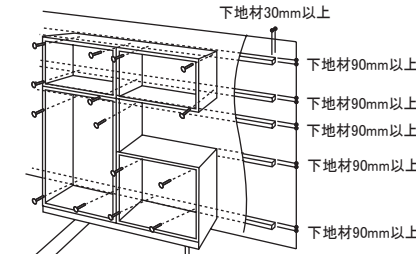
※木棧は厚さ30mm以上(目安)の乾燥材を使用してください。

※合板(t=12mm)のベタ張りでは、つり下げ強度が足りません。必ず厚さ18mm以上のものをご使用ください。

■ A部詳細図

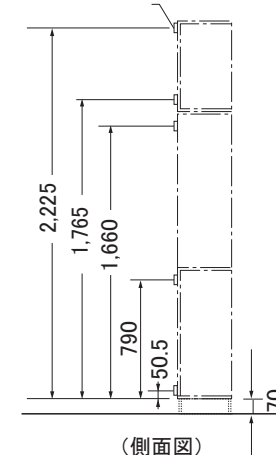


各ユニット毎に背後の壁にビスで固定します。(ビスは現場調達)



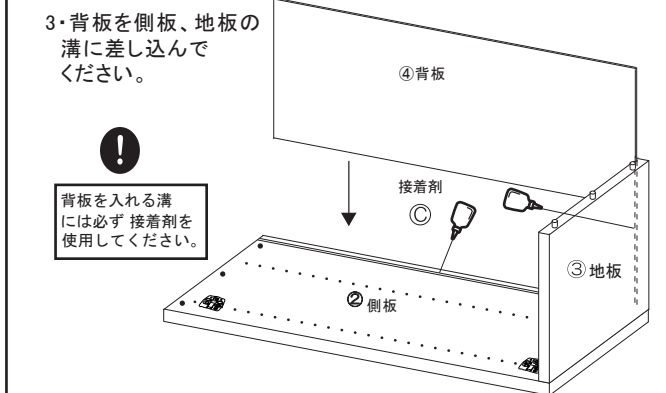
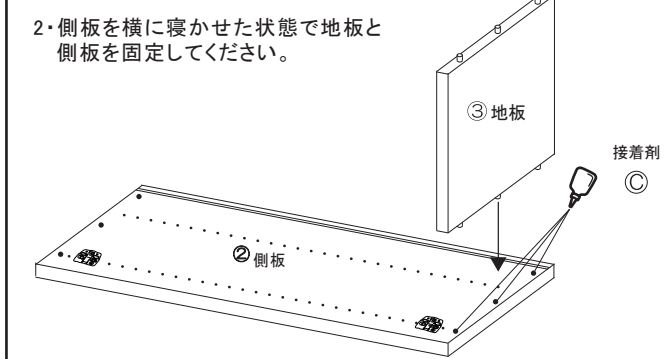
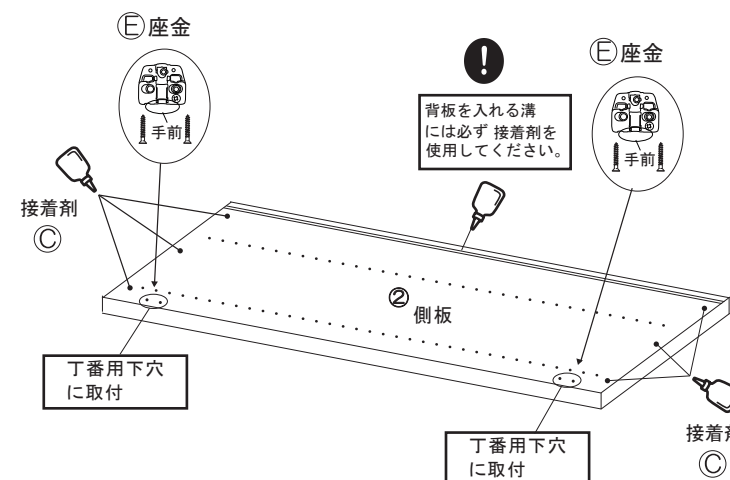
木棧ピッチは木棧の大きさによります。

固定用木棧

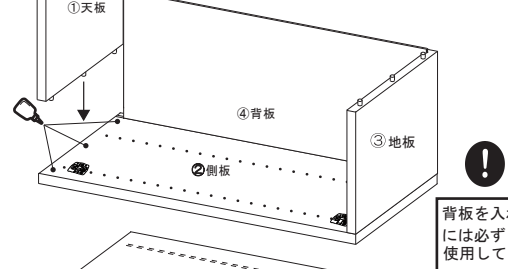


■ 施工手順

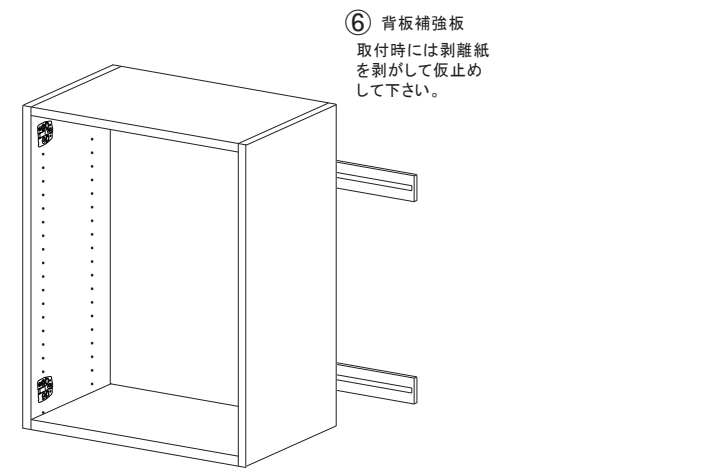
- 1 側板に座金を取り付けてください。(側板は左右共通です)
(W400タイプは吊元に注意してください。)
- ❗ 天板・地板の組込には必ず接着剤を使用してください。
※接着剤が足りない場合は現場調達してください。



- 4 天板を側板のダボ穴と背板に合わせ、取り付けてください。



- 7 背板補強板の仮止めについて
背板にゴミ・ホコリが付着している場合はウエス等で取り除いて下さい。

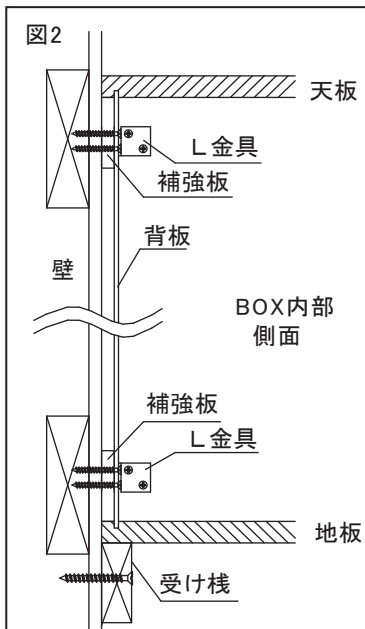
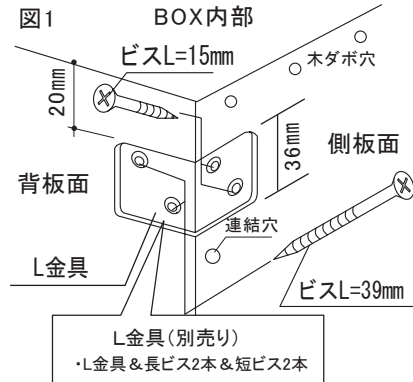


2 フロート施工(吊り施工)する場合 (受け桟セット別売り)

・BOX内側から背板・側板を付属のL金具とビスで壁に固定してください。図1・2参照

・L金具は、上下共コーナー端から20mmの位置に取付してください。図1・2参照

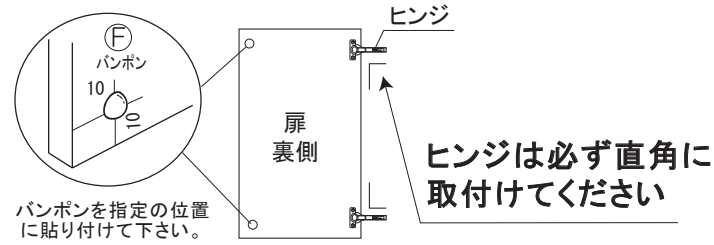
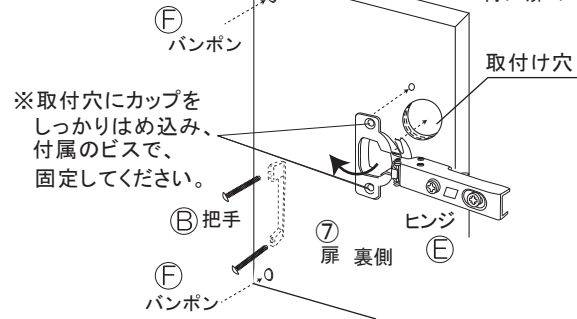
❗ ※側板側には短いビスを背板側には長いビスを使用してください。図1参照



3 扉へヒンジ、バンポン、把手の取り付け

各品類は確実に取り付けください。もし緩み等がありますとガタつきの原因になります。特に扉の取り付けには注意してください。

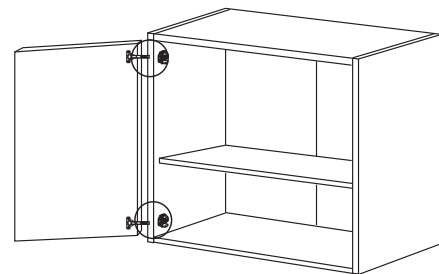
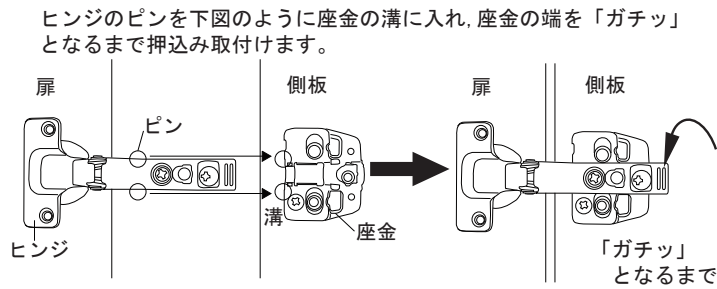
バンポンは扉の両木口から10mm、木端から10mmの位置に取り付けてください。



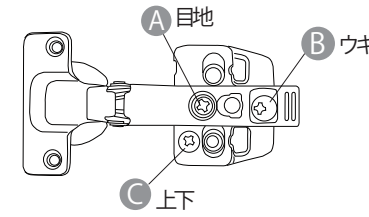
4 扉の取り付け

ヒンジのピンを下図のように座金の溝に入れ、座金の端を「ガチッ」となるまで押し込み取付けます。

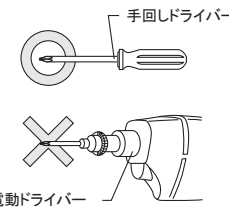
●扉に取り付けたヒンジを側板の座金に、ガチッと音がするまで押し込んでください。



5 扉の建て付け調整 (ヒンジによる調整)



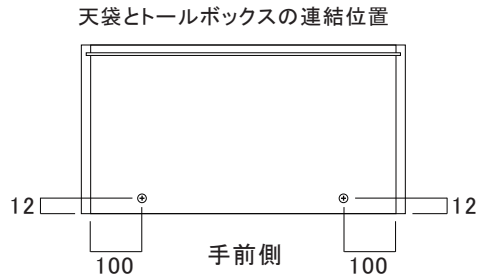
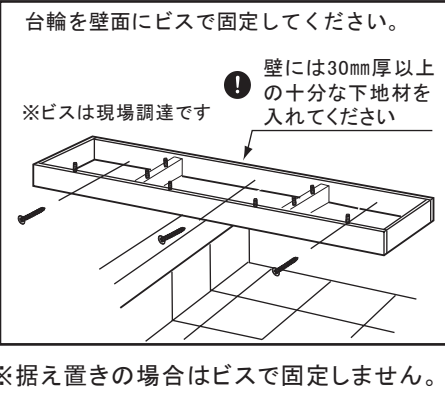
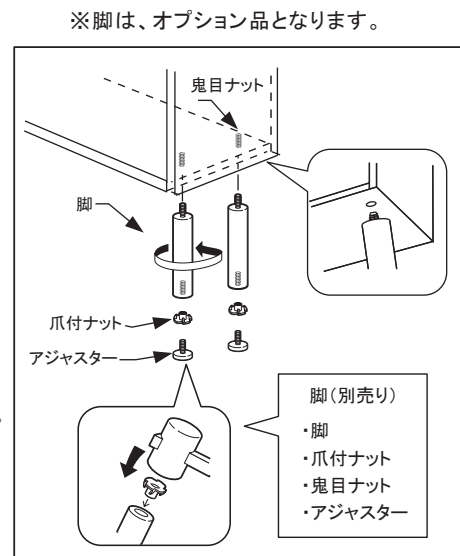
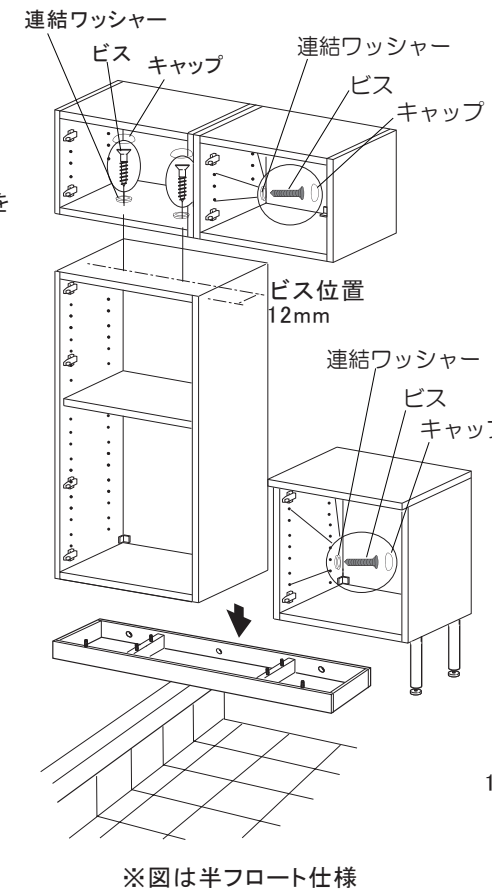
※建て付け調整は必ず、手回しドライバー(No.2サイズ)を使用してください。
※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



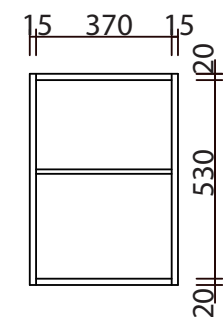
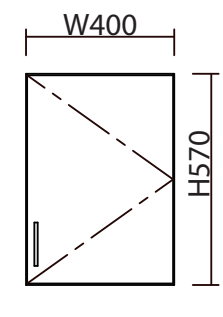
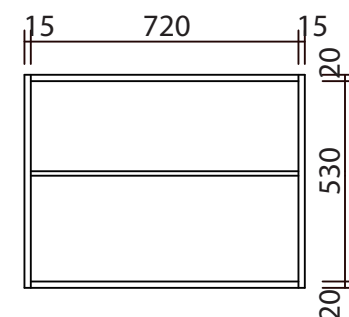
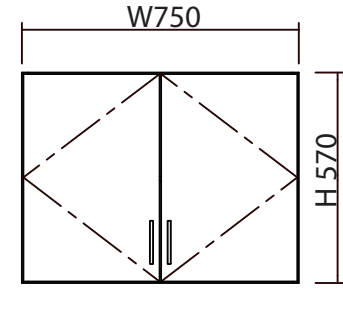
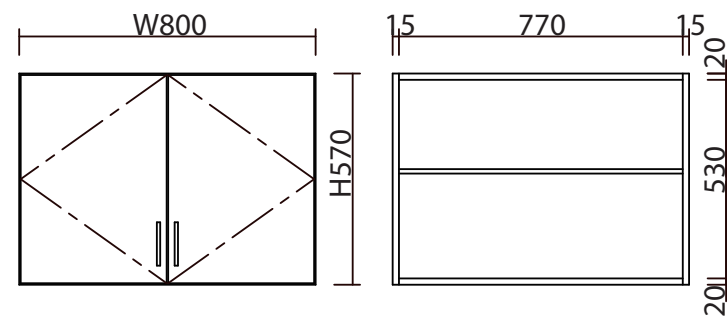
扉の状態	調整方法
扉目地調整	<p>Aをゆるめると矢印の方向に動く</p>
扉ウキ調整	<p>Bをゆるめると矢印の方向に動く</p>
扉上下調整	<p>Cをゆるめると矢印の方向に動く</p>

6 各ユニットの連結と脚・台輪の取付け

- トールボックスとローボックスの連結は、側板より連結ビスセットで連結してください。連結ビスの頭はセットキャップで化粧してください。
 - 天袋とトールボックスの連結には連結ビスセットを使用してください。
 - 台輪をご使用の場合、台輪のタボと本体の地板裏面のダボ穴と連結してください。
 - 棚受けダボを側板に差し込み可動棚板を取付けてください。
- ※台輪と本体の設置には十分な養生を行ってください。もしとれない場合は浮いている部分にカイモノを入れてください。



寸法図 正面図



寸法図 側面図

